

とらっくあずま つうしん

バックナンバーをHPにて掲載しています♪

2021. 2月発行 vol.9
有限会社トラックアズマ



顧問のあずま こうじです

2021年は、コロナ禍の為に初詣にも行き難い幕開けとなりましたね。
初詣はひと・人・ヒトと混み合うので今はどうしても足が遠のきます。
そこで今回は、皆様の退屈しのぎに弊社のある八尾市の見どころ自慢にお付き合い
いただこうと思います。前回八尾は、聖徳太子ゆかりの地であることなどを
ご紹介いたしましたのでそこは、置いといて紹介いたします。

八尾の見どころ自慢一つ目

空港があります！！これは、凄いでしょ！大阪には、大阪国際空港、関西空港とあって
三番目の規模の八尾空港です。知らなかったやろ！（笑）
って言いましたけど定期便の就航はなく、
主として航空宣伝・写真測量・操縦訓練などの事業用や
自家用の小型航空機やヘリコプターの発着に
利用されているほか、陸上自衛隊や消防・警察の
航空隊が利用しているそうです。



八尾の見どころ自慢二つ目

前方後円墳の中河内最大の古墳が有る！
大阪には世界遺産に指定されている『百舌鳥・古市古墳群』が、有ります。
隣の藤井寺市までは、世界遺産に入っているんですが八尾は・・・外れています。
その古墳が、『心合寺山古墳（しおんじやまこふん）』です。フリガナなかったら
読まれへんでしょ。人が少ないので立ち寄って古代を感じてみてください。



八尾の見どころ自慢三つ目

2020年は、コロナ禍だったので開催されませんでした、
『八尾河内音頭まつり』です。
地元の皆様の企業、商工会、青年会議所などの協賛で
2019年は、第42回が開催されました。
みんなで浴衣着て踊って本当に皆さん楽しんでおられます。
私も幼少のころは大阪の生まれ育った地域の
盆踊りには毎年参加して踊っていました。



八尾市立しおんじやま古墳学習館も近くにあるよ。

2019年は、2872名の参加者もあり最多人数
で踊る盆踊りでギネス記録も
認められました。
このようなイベントで地域が活気にあふれ
自由に出歩けるそんな時が来るのが
待ち遠しいですね。
まだまだコロナの終息のため我慢する日が
続きますが、笑顔で前を向いて進んで
いきましょう。
2021年が、すべての皆様に本当に良い事
ばかりで忘れられない一年になることを
願っております。

⇒⇒ 裏面もあります ⇒⇒

こんにちは。トラックアズマ福岡支店吉本です。

2021年も始まり1ヶ月が過ぎました。皆様におかれましては良い年になりますように心からお祈り申し上げます。

今回のテーマは福岡出身福岡育ちの吉本がご紹介いたします福岡ご当地グルメです。皆様は福岡ご当地グルメと聞いて何を思いつきますでしょうか？

豚骨ラーメン？もつ鍋？水炊き？辛子明太子？太宰府天満宮梅が枝餅？など様々あります。

その名だたる？グルメの中から【辛子明太子】をご紹介いたします。

辛子明太子は、すけとうだらの卵を唐辛子などの調味液で味付けしたもので17世紀ごろに朝鮮半島でキムチなどと共に幅広く食されていました。

明太子の語源については、すけとうだらを朝鮮語で「ミョンテ」と言い「明太」と書くことから、すけとうだらの子を

「明太子（めんたいこ）」と呼ぶようになりました。



福岡（博多）の名物食品となりましたのは

第二次世界大戦後、朝鮮で育った株式会社ふくや創業者の川原俊夫氏が博多に引き上げてきて故郷で食した味を日本でも食べてもらいたい！と

加工改良し1949年（昭和24年）ごろより製品化したものを中洲で販売するのがきっかけです。

そして、多くの方々に作って食べていただきたい思いから商標登録をせず今日に至りました。

おかげで福岡市内を中心にメーカーも増え、競争による製品開発も活発化しました。今では100社くらいのメーカーがあり、それぞれ独自の調味方法で

「すけとうだらの子（卵巣も含む）」を使って調味液で味付けさえすれば「辛子明太子」として誰でも販売できます。

川原俊夫氏の男気と太っ腹に「あっぱれ～!!」



私のお勧めの明太子は「あごおとし」と「蔵出しめんたい本舗」です。

「あごおとし」は顎が落ちるくらい美味しいことと、トビウオでとった出汁を福岡では「アゴ出汁」と呼ばれていることから名付けられたそうです。

アゴの出汁が効いて後味よく、ご飯によく合います。

「蔵出しめんたい本舗」は一粒一粒がしっかりし、お酒のお供として最高です。スパゲッティなどでも美味しく召し上がれますが、炊き立てのご飯に明太子が一番だと思います。皆様も機会がございましたら一度ご賞味ください。

 **節分が2月2日になるのは124年ぶり** 

今年立春が2月3日の為、124年ぶりに2月2日が節分です。

そして2025年から4年ごとに再び2月2日が続き、今世紀末にかけて頻度が増えていくとされています。ともあれ今年も豆をまき、厄災を払いましょう！「鬼は外！福は内！！コロナ退散！！！」

